

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）
考える子 心の美しい子 たくましい子	1 自ら考え、友と協働し合って問題を解決する子ども 2 友と認め合い、支え合って、互いを大切にしよう子ども 3 自ら心身の健康を求め、目標に向かってがんばりぬく子ども

今年度の重点目標		評価平均	成果と課題	
①	関わり合って考える子	2.8B	・友だちと関わったり話し合ったりする場面を意図的に仕組んできたことにより、自分の考えを発信していく、友だちの考えを受け止めるという雰囲気が育ってきている。そういった活動をとおして、自分の考えと比べながら友だちの考えを聞く力も身につけてきている。子どもたちが考え合いたくなるような場づくりを教師が心がけていくことが大切である。	
②	すすんであいさつをする子	2.3C	・あいさつについては、個人差が大きいだけでなく、できる場面とできない場面とがあるようだ。あいさつの心地よさや大切さを体感させたい。	
③	元気に身体をきたえる子	2.8B	・コロナ禍で運動の仕方に工夫が必要な状況である。休み時間に体を動かして遊ぶ子は多いので大切にしていきたい。運動の時間をしっかりと確保したい。	
領域	評価項目	評価の観点	評価平均	成果と課題
学校教育	学習指導 授業導入の工夫	①子どもたちが一時間の見通しをもつことができているか。 ②子どもたちは興味関心をもって授業に臨んでいるか。	2.8B	○授業の導入では、子どもたちが「なぜ」「どうして」と問題意識をもてるようにし、子どもたちから生まれた「問い」を学習問題に設定することを行ってきた。何を考えるのか、どうやって考えるのか見通しをもてるようになり、個々に応じた方法で学習に向かっている。 ○学習問題→学習課題→まとめ・ふり返りの流れや、板書の工夫により、1時間の授業に見通しをもつことができた。 ●子どもたちの「伝えたい、知りたい」という気持ちや、「誰に伝えるのか」ということを大事にして授業を作っていくことが課題である。
	授業展開の工夫	③子どもの意欲・意識を大切にしたい授業を行っているか。 ④体験活動や操作活動等の五感を働かせる活動を位置づけているか。	2.9B	○生活科の学習や日常生活と結び付けたり操作活動を増やしたりすることで、意欲的に学習している。また、教材研究を丁寧に行い、学習形態や学習ツールを工夫した。 ○社会科見学が実施できない状況なので、出前講座を実施し、映像や講師の方のお話を通して学ぶ機会を設けた。 ●操作活動を中心にする事で時間がかかってしまうことがあった。意識や意欲よりも、やらなければならないことの指導で追われてしまうことが多かった。
	授業終末の充実	⑤自分の学びをふり返ったり、友だちの学びを認め合ったりする場を設けているか。	2.5B	○ふり返りの時間を確保し、ふり返りで子どもたちから出てきたことを次時の授業の導入に位置付けている。分かったことを自分の言葉でまとめることで、教師側も子どもたちの学びを確認することができた。 ●ふり返りの時間を十分確保できていない。友の学びを認め合い、ふり返ったことを次時に活かしていく授業の改善に努めたい。
生活	あいさつが響き合う	⑥あいさつの声が校内・校外で響き合う学校に向けて取り組んでいるか。	2.3C	○「あいさつのキャッチボール」を合言葉に取り組んだ。個人差はあるが、あいさつを交わし合う気持ちよさは感じているので、継続して指導したい。 ○あいさつをする前に相手の目を見ることが習慣づいてきた。相手意識をもったあいさつを大切にしていきたい。 ●あいさつについては個人差が大きい。あいさつをしても返ってこないこともある。気持ちを伝え合うことの大切さを感じ取らせたい。
	早期発見早期対応の生徒指導	⑦学年・学校として、職員が連携して子ども達の課題に取り組んでいるか。	3.0A	○学年会・職員会議だけでなく、日頃から児童の様子について情報が共有できている。管理職や係とも連携を取り、対応に努めている。 ○QUの結果を受け止め、学年でも共有しながら子どもたちと関わった。 ●学級だけでなく専科の授業の様子についても関心を高めていきたい。また、様々な係が連携して対応していくよう改善していきたい。
学級経営	学級づくり・仲間づくり	⑧道徳や特別活動の時間で、子どもと教師間・子どもと子ども間の信頼関係を構築する活動が行われているか。 ⑨子どもが自分を見つめ直したり所属感を高めたりできるような相談・面接活動を行っているか。 ⑩体の成長に目を向けたり、積極的に体を動かしたりするような環境づくりや子どもたちへの働きかけを行っているか。	2.7B	○お互いのよいところや努力しているところなどを伝え合う機会を設けてきた。認め合う喜びや肯定的な見方ができることを意識している。担任として、子どもたちが訴えてきたことには、しっかりと耳を傾け、心を寄せて対応してきた。 ○集団の一員としての自覚を高めること、自分の言動を振り返らせること、継続して取り組むことの大切さなどについて、必要に応じて個人面談をしている。 ○仲間づくりのアクティビティなどに何度も取り組み、楽しく多くの友だちと関われる雰囲気の学級になってきている。 ○関わり合える活動を取り入れるように心がけてきた。学校生活に不安を抱えていた子どもたちが安心できたり、頑張っている子どもたちが認められたりする学級づくりをこれからも心がけていきたい。 ●子どもたちに目を向け、心の内を聞き取るうとし、安心して学校生活を送れるような学級経営を心がけてきたつもりだったが、独りよがりな部分があったかもしれない。QUの結果などをしっかりと受け止めていきたい。 ●体を動かすことが苦手な子への働きかけや環境づくりを工夫していきたい。
学校運営	地域との連携 適切な情報発信	⑪学校・学年・学級の指導方針や様子について、学級懇談会やお便り、HPなどでわかりやすく伝えているか。	2.8B	○お便りには写真を多く掲載し、学校生活の様子が伝わりやすいように工夫した。学習の様子や担任の願いや思いを伝えることもできた。 ●参観日や学級懇談会を通常の形で行うことが難しい状況である。学級懇談会が全校一斉だったり、参観日と別日だったりして、各学級の参加者が少なかった。そのため、担任の思いを伝えることができていないように思う。
	PTAとの協力	⑫PTAと協力しながら、よりよい学習活動や学習環境作りをめざした活動が行われているか。	2.7B	○保護者の方からいただいた連絡については、その日のうちに電話や家庭訪問などの対応をし、解決できるように心がけている。 ○コロナ禍で制限されているが、今できることを今できる方法でご協力いただいている。 ●保護者の方と関わる場面が減少しているため、学校や担任の思いを伝える場が限られているので伝えきれないという思いがある。
	地域との交流	⑬神川小ボランティア・学習ボランティアがスムーズに行われているか。	2.2C	○5年生は、米作りで地域の方にお世話になっている。充実した経験をさせていただき感謝している。 ●コロナ禍において、どこまで関わっていただいたらよいか戸惑っている。交流についても自粛せざるを得ない状況である。制限下における内容や方法を模索したい。
研修	授業改善の研修	⑭「明日もきたくなる学校」の具現に向け、授業力向上のための研究や研修が実践できているか。	3.0A	○ICT教育、特別支援教育について研修を進めている。ICT教育は自分にとってハードルが高いが、情報係、ICT支援員、学年会、ICT研究部会などに助けをもらいながら実践を重ねることができた。子どもたちも楽しみにしているので、より効果的な活用方法を研究していきたい。 ○一人一公開の授業参観や重点研究、学年会などで学ぶ機会が多い。自分の中でしっかりと消化し、実践に結び付けていきたい。また、学習でつまづきそうなところをしっかりと教材研究するよう努めていきたい。